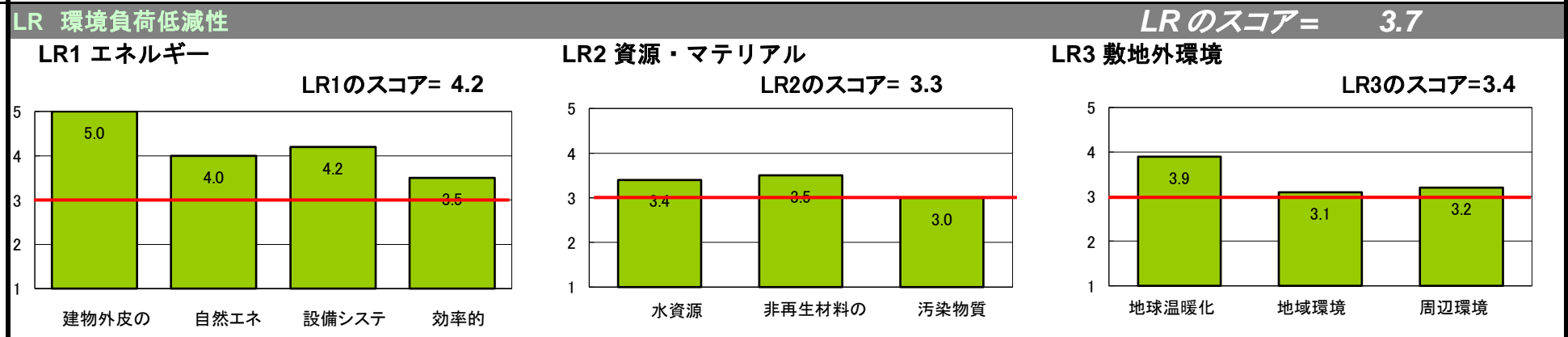
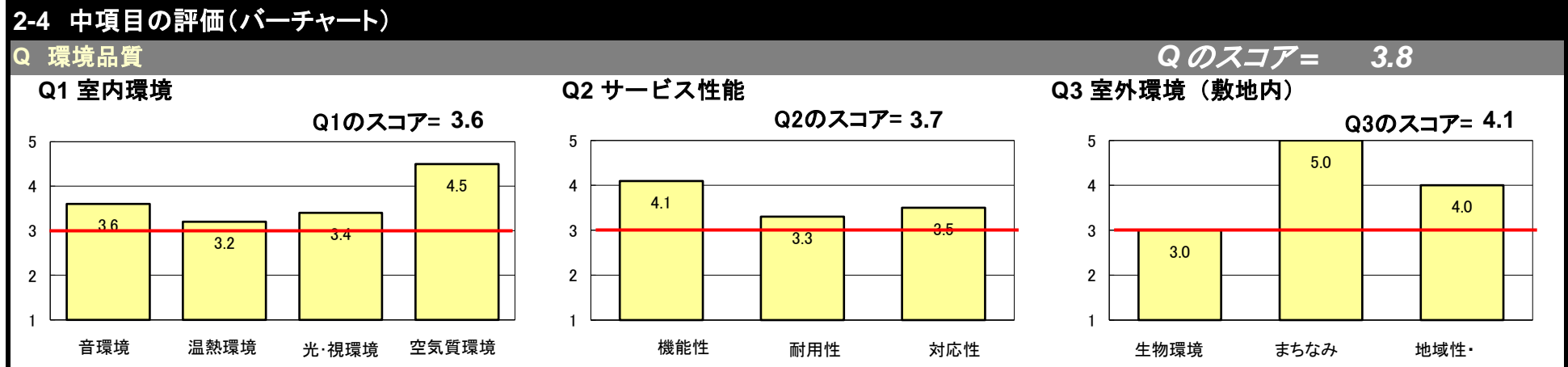
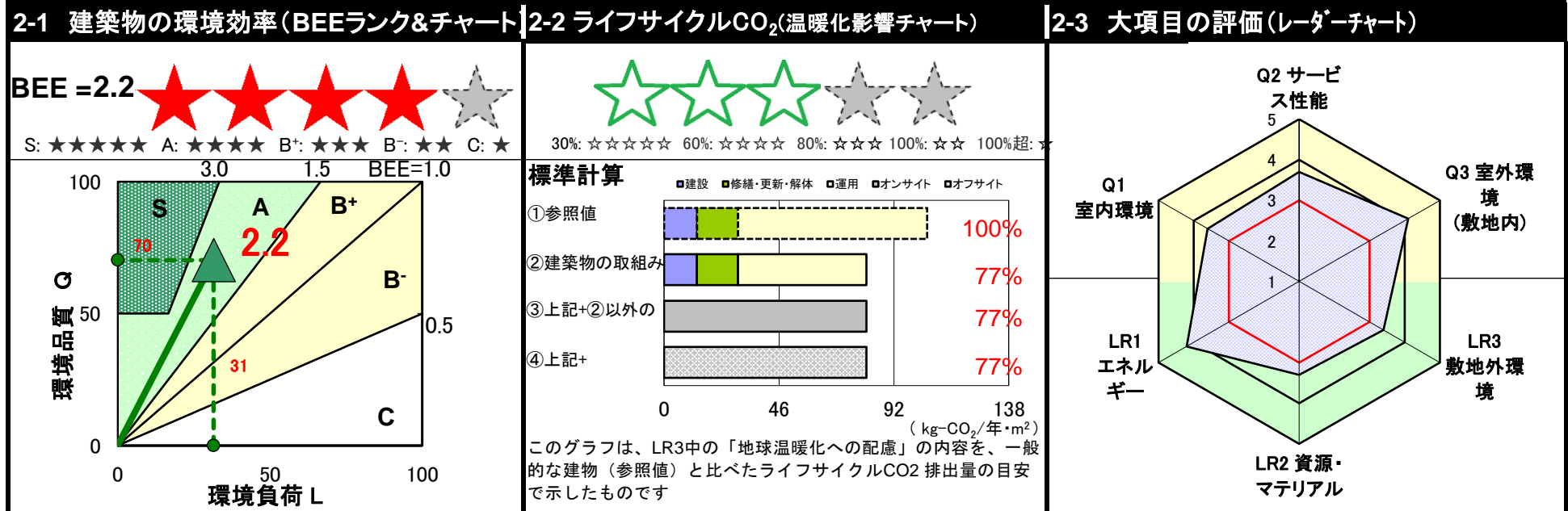


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	豊田市若園交流館	階数	地上3階
建設地	愛知県豊田市花園町脇ノ田13-3 他 21筆	構造	RC造
用途地域	第一種低層住居専用地域、第一種住居地域	平均居住人員	300 人
気候区分	6地域	年間使用時間	4,380 時間/年
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2023年3月 予定	評価の実施日	2020年12月23日
敷地面積	26,164 m ²	作成者	寺尾 達也
建築面積	1,419 m ²	確認日	2021年2月12日
延床面積	2,705 m ²	確認者	清水 泰雅



3 重点項目	
<p>①地球温暖化への配慮</p> <p>3.9</p>	<p>③敷地内の緑化</p> <p>3.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p>18.90 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p>0.00 %</p>
<p>②資源の有効活用</p> <p>3.4</p>	<p>④地域材の活用</p> <p>4.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>豊田市産木材</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>豊田市産木材</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積(建築面積及び附属物面積)}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

3 対応性・更新性				0.2	3.5	0.29	-	-	-	3.5	
3.1 空間のゆとり		②	階高さを3.7m確保している	0.3	3.6	0.31	-	-	-		
1	階高のゆとり			-	4.0	0.60	-	3.0	-	-	
2	空間の形状・自由さ			3.0	3.0	0.40	-	3.0	-	-	
3.2 荷重のゆとり				3.0	3.0	0.31	-	3.0	-	-	
3.3 設備の更新性				0.3	3.8	0.38	-	-	-	-	
1	空調配管の更新性			-	3.0	0.17	-	-	-	-	
2	給排水管の更新性	3.0	4.0	0.17	-	-	-	-			
3	電気配線の更新性	3.0	3.0	0.11	-	-	-	-			
4	通信配線の更新性	3.0	3.0	0.11	-	-	-	-			
5	設備機器の更新性	3.0	5.0	0.22	-	-	-	-			
6	バックアップスペースの確保	3.0	4.0	0.22	-	-	-	-			
Q3 室外環境(敷地内)				-	-	0.30	-	-	-	4.1	
1	生物環境の保全と創出	独自③	逢妻男川に面した法面は緑化につとめ、一部木々を植樹している	-	3.0	0.30	-	-	-	3.0	
2	まちなみ・景観への配慮	独自④	豊田市産構造材を表して計画している。敷地法面を緑化している	-	5.0	0.40	-	-	-	5.0	
3 地域性・アメニティへの配慮			利用者参加型の設計手法を実施	0.3	4.0	0.30	-	-	-	4.0	
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	独自④	1階共用部はゆとりを持たせるとともに半屋外空間を併設させている	-	5.0	0.50	-	-	-		
3.2	敷地内温熱環境の向上		建物は風の道を確保した配置とし、室外機は建物の高い位置へ計	-	3.0	0.50	-	-	-		
LR 建築物の環境負荷低減性										3.7	
LR1 エネルギー						0.40				4.2	
1	建物外皮の熱負荷抑制		非住宅部分のBPI=0.65	3.0	5.0	0.30	-	-	-	5.0	
2	自然エネルギー利用		ハイサイドライトによる自然採光の採用、引違窓による自然通風の確保	3.0	4.0	0.20	-	-	-	4.0	
3	設備システムの高効率化		非住宅部分のBEI=0.68	3.0	4.2	0.30	-	-	-	4.2	
4 効率的運用				0.2	3.5	0.20	-	-	-	3.5	
集合住宅以外の評価				1.0	3.5	1.00	-	-	-		
4.1	モニタリング			3.0	3.0	0.50	-	-	-		
4.2	運用管理体制		年間エネルギー消費量を算定しCO2削減量を定めている	3.0	4.0	0.50	-	-	-		
集合住宅の評価				-	-	-	-	-	-		
4.1	モニタリング			-	3.0	-	-	-	-		
4.2	運用管理体制			-	3.0	-	-	-	-		
LR2 資源・マテリアル						0.30				3.3	
1 水資源保護				0.1	3.4	0.15	-	-	-	3.4	
1.1	節水		節水コマの採用	3.0	4.0	0.40	-	-	-		
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				0.6	3.0	0.60	-	-	-		
1	雨水利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.67	-	-	-		
2	雑排水等利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.33	-	-	-		
2 非再生性資源の使用量削減				0.6	3.5	0.63	-	-	-	3.5	
2.1	材料使用量の削減	② 独自	-	-	2.0	0.07	-	-	-		
2.2	既存建築躯体等の継続使用		-	-	3.0	0.24	-	-	-		
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	-	3.0	0.20	-	-	-		
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		-	-	3.0	3.0	0.20	-	-		
2.5	持続可能な森林から産出された木材		-	-	3.0	5.0	0.05	-	-		
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み		独自	再生クラッシュラン(外構舗装砕石部へ適用) 木造躯体へは豊田市産製材を採用 再利用可能な一般流通製材や桧合板などを積極的に利用している	3.0	5.0	0.24	-	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				0.2	3.0	0.22	-	-	-	3.0	
3.1	有害物質を含まない材料の使用			3.0	3.0	0.32	-	-	-		
3.2 フロン・ハロンの回避				0.6	3.0	0.68	-	-	-		
1	消火剤			-	-	-	-	-	-		
2	発泡剤(断熱材等)			-	3.0	0.50	-	-	-		
3	冷媒			3.0	3.0	0.50	-	-	-		
LR3 敷地外環境						0.30				3.4	
1 地球温暖化への配慮		①	ペアガラスやLowE複層ガラスによる断熱性能の向上を図っている	-	3.9	0.33	-	-	-	3.9	
2 地域環境への配慮				0.3	3.1	0.33	-	-	-	3.1	
2.1 大気汚染防止				-	3.0	0.25	-	-	-		
2.2 温熱環境悪化の改善				-	3.0	0.50	-	-	-		
2.3 地域インフラへの負荷抑制				0.2	3.5	0.25	-	-	-		
1	雨水排水負荷低減	独自		-	3.0	0.25	-	-	-		
2	汚水処理負荷抑制			-	3.0	0.25	-	-	-		
3	交通負荷抑制	独自	隣接する中学校駐車場との連携	-	5.0	0.25	-	-	-		
4	廃棄物処理負荷抑制			-	3.0	0.25	-	-	-		
3 周辺環境への配慮				0.3	3.2	0.33	-	-	-	3.2	
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				0.4	3.0	0.40	-	-	-		
1	騒音	独自		-	3.0	1.00	-	-	-		
2	振動	独自		-	-	-	-	-	-		
3	悪臭			-	-	-	-	-	-		
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				0.4	3.0	0.40	-	-	-		
1	風害の抑制			-	3.0	0.70	-	-	-		
2	砂塵の抑制			-	1.0	-	-	-	-		
3	日照障害の抑制			-	3.0	0.30	-	-	-		
3.3 光害の抑制				0.2	4.0	0.20	-	-	-		
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		屋外空間へ庭園灯照明を計画している	-	4.0	0.70	-	-	-		
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		外装材へは低反射性の塗材を採用している	-	4.0	0.30	-	-	-		

重点項目(配慮項目)	評価点	全体に対する重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策			3.9
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.9	0.10
② 資源の有効活用			3.4
Q2-2	耐震性・信頼性	3.3	0.09
Q2-3	対応性・更新性	3.5	0.09
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.5	0.19
③ 敷地内の緑化			3.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	3.0	0.09
			外構緑化:18.90%/建物緑化:0.00%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)	4.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	2.0	-
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	1.0	-
			豊田市産木材
			豊田市産木材

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

計画上の配慮事項	
総合	境川水系二級河川である逢妻男川に面した広かれた立地を活かし、川側に建物間口を大きく計画するとともに積極的に開口部を設けることで、自然通風や採光を促進する計画としている。建物屋根は軒の出を深くすることで、日射の遮へいや雨垂れによる外壁汚れ防止へ配慮し、快適に使い続けられる建物を目指している。建物の木造化や木質化を図ることで、地域産材の活用を積極的に行っている。
Q1 室内環境	開口部へはLow-E複層ガラスを採用するとともに、屋根面の高断熱化を図ることで、室内の熱負荷低減へ配慮している。また、共用部東西方向へ風の通り道を確認するよう開口を設けることで、自然通風を促進させる環境を整えている。木造部の床はコンクリート床とすることで、振動や衝撃音対策としている。
Q2 サービス性能	耐震の重要度係数を1.25とすることで、大地震時に建物が継続利用できるような機能としている。また、各設備はまとまったスペースを確保することで、容易にメンテナンスが行えるよう配慮している。
Q3 室外環境(敷地内)	豊田市公共施設ガイドラインに従い、敷地内の緑化率を20%以上確保し、敷地内の環境配慮を行っている。また逢妻男川側へゆとりのある広場を計画することで、交流館利用者だけでなく、遊歩道散策者等、多くの人々が利用できる屋外空間を整備している。地域産木材が外からでも視認できるように、木架構による深い軒の出を確保することで、親しみの持てる、地域の風景の中になじむ建物としている。
LR1 エネルギー	建物屋根面へ太陽光発電設備を設置することで、停電時における最低限の電力供給が可能な計画としている。
LR2 資源・マテリアル	豊田市産木材を構造体や合板材、家具等へ積極的に活用することで、自然に優しい建物としている。また、フローリング下地はあいち認証材製品を利用することで、地元の木材利用へ貢献している。トイレ廻りの衛生器具へは節水型便器や節水コマを採用することにより、水資源保護に配慮している。
LR3 敷地外環境	豊田市の基準に従い、二酸化炭素低減に努めている。遊歩道側の法面を芝生により緑化することで、周囲の景観および緑化率向上へ配慮している。
その他	特になし